

プレスリリース

2017年 7月 20日

国立大学法人東北大学災害科学国際研究所

国立大学法人東北大学大学院理学研究科

国立研究開発法人海洋研究開発機構

2011年東北地方太平洋沖地震後の海底地殻変動場を解明

東北大学災害科学国際研究所の木戸元之教授、同大学院理学研究科の日野亮太教授、太田雄策准教授、同大学院生の富田史章、国立研究開発法人海洋研究開発機構の飯沼卓史研究員らの研究グループは、2011年東北地方太平洋沖地震（東北沖地震）の震源となった日本海溝沿いの海域において行った約4年間の海底地殻変動観測により、東北沖地震後に進行している地殻変動の空間変化の特徴を明らかにしました。東北沖地震後の地殻変動の詳細が明らかになったことにより、6年前の東北沖地震発生メカニズムの理解が一層すすむとともに、東北地方におけるこれからの地震活動を予測する上で重要な手がかりが得られました。

この研究成果は、2017年7月19日（日本時間7月20日）に米国の科学雑誌「Science」のオープンアクセスジャーナルである「Science Advances」電子版に掲載されました。

詳細は[東北大学のサイト](#)をご覧ください。

国立研究開発法人海洋研究開発機構

広報部 報道課長 野口 剛